

# 日露医療協力「健康づくり・予防医療」分野 プロジェクト

## ロシア国立予防医療科学センター専門家の日本招聘プログラム報告

### 1. 背景、目的

本プロジェクトは、日露間における医療協力<sup>\*1</sup>の一環で、（公財）愛知県健康づくり振興事業団は、2017年からロシア国立予防医療科学研究センター（NRCPM<sup>\*2</sup>）と日本側関係施設等とともに、ロシアにおける肥満予防医療プログラムの開発に取り組んでいます。

あいち健康の森健康科学総合センターの津下一代センター長らは、日本側関係施設、厚生労働省とともに、モスクワにあるNRCPMを2度訪問し、ロシアの肥満や生活習慣病の予防対策の現状について情報交換を行いました。今回、プロジェクトの更なる進展につなげていくため、NRCPMセンター長をはじめ4名の医師を招聘しました。日本の生活習慣病予防等の施策や活動について、具体的なイメージを共有できるように、あいち健康の森健康科学総合センターにおいて3日間のプログラムを計画、実施いたしました。

#### \*1：日露間における医療協力

2016年5月の日露首脳会談において、医療分野における協力を含む「8項目の協力プラン」を安倍総理からプーチン大統領へ提示し、プーチン大統領から高い評価と賛意が表明された。同年12月15日に、塩崎前厚生労働大臣は、来日したロシア連邦スクヴォルツォヴァ保健大臣との間で「日本国厚生労働省とロシア連邦保健省との間の医療・保健分野における協力覚書」に署名を行い、医療・保健分野における協力を発展させることで合意した。

参考：外務省ホームページ（[http://www.mofa.go.jp/mofaj/erp/rss/page3\\_001680.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/erp/rss/page3_001680.html)）

#### \*2：1988年に設立された予防医療分野における科学研究を行うロシア連邦保健省に所属する機関

### 2. あいち健康プラザ ロシア関係者訪日スケジュール【平成30年1月29日（月）～31日（水）】

日	時	内 容
1/29 (月)	13:30 - 17:00	○あいさつ 愛知県健康福祉部 松本一年保健医療局長 ○ディスカッション ・あいち健康プラザの生活習慣病対策概要説明、 ・生活習慣病予防、行動変容のための保健指導プログラムの紹介（IoTの活用等） （あいち健康の森健康科学総合センター センター長 津下一代） ・日本における健康な食事の普及について （女子栄養大学栄養学部 教授 武見ゆかり） ・糖尿病患者教育、地域連携（京都大学医学研究科 特定准教授 矢部大介）
1/30 (火)	9:00 - 12:00	○あいち健康プラザにおける 保健指導教室視察・体験（津下センター長他）
	13:30-	○刈谷市総合健康センター視察
	16:00-	○日本の生活環境紹介（アピタ刈谷店：スーパーの健康への取り組みの現状 視察）
1/31 (水)	10:00 - 12:00	○ミニレクチャー（中村学園大学栄養科学部栄養科学科 教授 大部正代） ○ディスカッション① ・保健指導プログラム、教材、人材育成について（津下センター長他）
	14:00 - 17:00	○あいさつ（厚生労働省 国際保健担当 池田千絵子総括審議官） ○ディスカッション② ・まとめ（津下センター長他）
	18:00-	移動：あいち健康の森→国立循環器病研究センター

### 3. 視察概要

#### 【1月29日（月）午後：健康づくり施策に関するディスカッション】

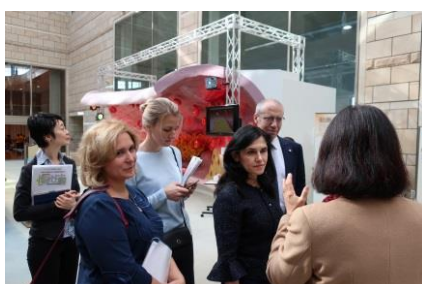
NRCPMの医師4名が到着、一次予防、二次予防、三次予防のそれぞれの立場から、日本の生活習慣病対策について（津下先生）、日本における健康な食事の普及・施策・環境整備について（武見先生）、糖尿病患者教育や地域連携の方策について（矢部先生）レクチャー、およびディスカッションを行いました。医療現場における教育、保健事業における予防介入、地域の環境整備、各視点に応じたプログラムができることが必要であり、連携して取り組む重要性を再確認しました。



NRCPMと日本側専門家のディスカッション

#### 【1月30日（火）午前：保健指導教室視察・体験】

あいち健康プラザの健康づくり教室や施設の紹介をしました。NRCPMの皆さまには、保健指導現場の視察中に、タッチパネルによる食生活習慣の質問、簡単な体力測定など、体験していただきました。参加者が保健指導者と相談しながら行動目標を設定する場面では、対象者の生活習慣改善への気持ちの変化、行動の変化を促すための保健指導手法に関心を持たれましたプログラムを実装するためのマニュアルづくりや人材育成が重要との意見から、プログラム展開について具体性のあるディスカッションをすることができました。



健康科学館の視察



保健指導現場の視察



食生活習慣質問ソフトの体験

#### 【1月30日（火）午後：刈谷市総合健康センター視察、日本の生活環境紹介】

自治体における健康づくり対策について、刈谷市様のご協力を得て、刈谷市総合健康センターの事業および施設のご紹介をいただきました。今後、NRCPMで開発したプログラムをロシア全国へ普及するためのイメージにつながるよう特定保健指教室を紹介、あいち健康プラザと市の保健師が連携しながら実施している例などもお伝えしました。ロシアの取り組みに向け、ファーストステップとして参考になった、と声をいただきました。



刈谷市総合健康センターの視察

日本人の日常生活環境を紹介する機会になればと、アピタ刈谷店様にご協力をいただき、食品売り場を視察しました。日本で売られている肉などの小分けの量や1パック（皿）のサイズ、鮮魚や地元野菜の販売コーナーなどをご覧になり、お店側の取り組みとして減塩商品のコーナーを設置していることについてもご紹介しました。滞在中に体験した日本食にも関心を示され、乾物の海藻、だし等をお土産として購入される場面もありました。

**【1月31日（水）：ディスカッション、まとめ、今後に向けて】**

午前は、NRCPM の皆さまから愛知滞在中に寄せられた疑問に対する回答、ロシアにおける保健指導で活用する教材などについて、津下先生を中心にディスカッションを行いました。大学で取り組む肥満者を対象とした減量サポートプログラム（大部先生）の紹介をいただきました。

午後はプロジェクト進行のための具体的な準備について議論した。NRCPM で実施する肥満者への保健指導介入（パイロット事業）にて利用する教材は、あいち健康プラザの特定保健指導教材を参考に、ロシア側にて作成する運びとなり、事業を動かすための運営マニュアルや保健指導マニュアルの必要性についてもディスカッションしました。池田総括審議官（厚生労働省）もおみえになり、NRCPM およびプロジェクトメンバーに対し、プロジェクト成功への期待を込めた心強いメッセージをいただきました。

ロシアにおけるパイロット事業開始に向け、具体的なディスカッションや計画の確認をすることができました。保健指導教材についても、日本の教材を参考にロシア版へアレンジしてみるとの言葉をいただき、ロシアと日本の共同した取り組みが徐々に形になっていくことを感じ、お互いに今後の進展に期待を高めながら、愛知のプログラムを終えました。



3 日間を通し、今後のプロジェクト推進につながる大変貴重な機会であり、両国間において大変有意義な意見交換ができました。今回お世話になりました刈谷市の皆様、アピタ刈谷店様、誠にありがとうございました。

★新聞取材

**ロシアの医療関係者 東浦に**

**肥満の予防法**

**日本ヒントに**

ロシア政府機関の医療関係者ら四人が三十日、東浦町のあいち健康プラザを訪れ、トレーニング設備や施設で提供している保健指導教室を視察した。（宮崎正嗣）

施設を運営する東健 肥満 題になっているといふ。昨年六月から、ロシア 視察したのは国立予保健省に所属する国立 防医療科学研究所センターなど協力し、ロ 尿糖予防のため市民向 シアでの肥満予防医療 けに実施している食生 プログラムの開発に取 活の改善講習を實際に り組んでいる。ロシア 見学。あいち健康プラ ザの津下センター長から、講習での測定 の割合が高く、社会関 長から、講習での測定 た」と話していた。

項目や指導の進め方を開いた。ロシアには日本の特設健診にあたる制度はないといふ、研究者らは「講習で本当に効果は出るのか」「国全体でどうやって同じプログラムを提供しているのか」などと質問していた。

津下センター長（右から2人目）から食生活改善の講習について説明を受けるロシアの医療関係者等。東浦町のあいち健康プラザで



# 健康づくり事例視察

刈谷でロシア医療関係者ら

日本の地方自治体が一環で、県健康づくり進める健康づくりの取組を学ぶため、ロシア国立予防医療科学センターと「ロシアにおける肥満予防医療プログラム」の開発に取り組み。同事業団が運営する「あいち健康プラザ」（東浦町）の視察に合わせ、地方自治体



施設について説明を受けるロシアの視察団＝刈谷市総合健康センターで

2018.1.31 中日新聞朝刊、三河版より

での事例を見るため市総合健康センターを訪れた。  
トレーニング器具を置いた「げんきプラザ」や「健診室」「栄養指導室」などを見学した一行は、問診や体力測定の結果から自身の生活習慣を振り返る「げんき度測定」など、センターが進める健康増進の取り組みについて説明を受けた。ロシアの医療関係者は「栄養指導ではどのような料理を提案することが多いのか」などと職員に質問していた。  
（土屋晴恵）